お茶の水地理　第34号　1993年

ごみ収集車の収集ルートについて

山　本　佳代子

近年社会を騒がせている「ごみ問題」を地理学の立場から考えようと試み，本研究ではごみの収集・輸送作業に関わる，ごみ収集車の収集ルートの問題について扱うことにした。経験則から作られたという現在のごみ収集ルートを，ごみの収集・輸送作業を能率良く行う理想ルートとするための，最初の段階である現状把握を目的としている。

特徴ある複数地域のごみ収集車の動きを比較するにあたり，条件を揃えるために対象地域は東京都清掃局の直接管轄する東京23区内とした。土地利用などの要素を検討した結果，工業を含む混合地域として墨田区本所清掃事務所管内，住宅地域として杉並区杉並東清掃事務所管内，商業地域として台東区浅草清掃事務所管内を，研究対象地域として選定した。それぞれの地域でごみ収集車一台一台のとるルートの特徴を，パターン分けして分析した。

その結果，収集ルートのパターンは，①道なりに真っ直ぐ進む直線型，②道なりに進みながら障害にぶつかると曲がり片仮名のコの字を描くコの字型，③曲がりながらもある一定の進路をとって進む己型，④自分の通ったところを再び通過する卍型，⑤収集車の折り返しの多いピストン地域，⑥作業をせずただ通過するところの多いとばし地域，の六つに分類できた。

以上のパターン分類に基づき，地域ごとの収集車の動きの傾向をまとめてパターン図を作成する。その図と地域の現況との相関性を探究し，結果として様々なルート形成要因があげられた。

地形では，その凹凸や河川の存在が関係すると思われる。道路状況では区画整理状況，道路幅員，道路規制，交通量，駐車駐輪が要因としてあげられる。町丁目境界や清掃事務所管轄地域の境界といった行政境界，商業・工業に代表される地域の産業も，ルートに影響しているようである。その他にも鉄道ほか公共施設・清掃事務所の方針，住民の協力など，あらゆることがルート形成要因として考えられる。

収集ルートへの影響力は道路事情が最も大きく，続いてごみの量や内容によるものと考えられる。収集車が通行しやすく道路が整い，走行距離を短く廻りやすい所ほど，最も単純な型である直線型に近くなる。一方道路事情が悪く収集車が廻りにくい所ほど，複雑な卍型に近いルートをとる。ピストン地域は狭隘道路の多いところ，とばし地域は繁華街や大規模事業所・施設の集中するところに分布する。

能率良いルートの作成により作業は合理化でき，さらに現在進められつつある東京都清掃事業のシステム化がルートの作成や管理に利用されれば，業務はかなり削減できるであろう。合理的に作業が行われれば，そこから生ずる余力を用いて今は手をまわせない地域住民の声に答えることも可能になる。ごみの出し方等の住民指導は，作業をより円滑にするであろう。能率的な収集ルート作りは，大きな意義を有するとみなせる。

しかし本当に良いルートのなんたるかがわからない現在では，作業の能率だけで善し悪しを判断することはできない。したがってごみ収集ルートを知るための研究が更に進められることに，ルート改善の明るい展望を期待したいと思う。